

ふじみさらダボール子育て情報



「自尊心を大切に」
令和3年9月15日号
板橋富士見幼稚園



失敗を重ねる勇気をそだてよう

幼児期の「失敗感」とは、思っていたことと違っているときに感じる「心の揺らぎ」です。心が揺らいだ時、子どもは冷静になろうと必死に葛藤します。葛藤のサインは人それぞれです。「下を向いて黙り込む」「おどけてみる」「周囲を見渡す」「そわそわする」「泣く」「照れ隠しする」など、百面相のごとく様々なサインを発信し、心の揺らぎを鎮めようとするのです。そして心の揺れが収まると、またその続きを進めていきます。つまり幼児期の失敗は、大人が思う失敗とは違い、子ども自身が単なる山越えのような感覚で捉えているのです。



大人達の中には、それを失敗だと決めつけ、もう一度やり直させたり、失敗を明確に伝えて失敗を自覚させようとする人もいます。しかし子どもは大人が感じる程、失敗という心の揺らぎを引きずることはないのです。それよりも、自己の思いを達成させたいと思い、その場からすぐに立ち上がり、前へ進めようとする力を持っています。そこが大人とは違う点です。

そこで大切にしたいのは、失敗を自覚させてしまわず、見て見ぬふりをして、笑顔で励まし、その先を進めようとする子どもをアシストしていくということです。子どもの自尊心を守り、その積み重ねが、勇気と自信を育てていきます。

黙り込んでしまったときには、立ち戻るまでそっと見守ってあげましょう。おどけて照れる子には、ちょっとしたヒントやアイデアを伝えたりしてアシストしてみてください。すぐに力強く再開していきます。くれぐれも、自尊心が傷つかないように配慮してあげてほしいものです。どんなに小さな子どもでも、その子には人権があり、自尊心もしっかり育ちつつあります。失敗は、やり直せるチャンスです。大切にしたいものですね。